

2013年4月11日

子宮頸がん予防ワクチン(HPV ワクチン)副反応報道について

子宮頸がん征圧をめざす専門家会議

一部のマスコミ報道による「子宮頸がん予防ワクチン副反応」に関しては、必ずしも医学的に正確ではない表現が使用され、一般国民に不安・動揺を引き起こしています。ワクチンの有効性と副反応については、医学的に正しい知識をもってワクチン接種を受けていただくことが重要です。

杉並区等の事例で言われているCRPS(complex regional pain syndrome)：複合性局所疼痛症候群は、外傷、骨折、注射針等の刺激がきっかけになって発症すると考えられており、子宮頸がん予防ワクチン特有のものではありません。国内での二つの子宮頸がん予防ワクチン接種回数約830万回で3例(0.000036%)が報告されており、インフルエンザワクチンでも報告があります。ワクチンの副反応事例は厚生労働省のHP で詳しく公開されています。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002x5rx.html>

厚生労働省は「注射針を刺すことが影響している可能性がある。中止するほどの重大な懸念はない。」との見解を表明しています。

ワクチン接種の有害事象には、副反応のほかに因果関係のない「紛れ込み事故(たまたまワクチン接種後に発生)」も相当数含まれます。各自治体、医療機関、ワクチン製造販売メーカーでは、因果関係に関係なく、厚生労働省へ報告しています。また、WHO(世界保健機構)をはじめ世界各国の規制当局も安全性モニタリング(監視)を行っています。

4月1日より子宮頸がん予防ワクチンが定期接種化されたことにより、ワクチン接種後に起きた健康被害に対して、これまでよりも手厚い救済が行われます。